



# 未来へつなごう平和なくらし 伝えていきたい 尊い命を奪う「戦争」

16 平和と公正を  
すべての人に



協力：「ちば・戦争体験を伝える会」

1945年8月15日に終戦を迎えた「太平洋戦争」。終戦間近の「東京大空襲」「沖縄戦」「ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下」だけでなく、千葉県内でも千葉市、船橋市、市川市、松戸市、銚子市などに空襲があり、多くの市民が亡くなりました。私たちはこのことを「忘れてはならない記憶」として伝えていきたいと思っています。平和な暮らしが続きますように…。

## 1945年6月10日 千葉空襲

ものすごい音、体が浮かび上がる様な振動。生死紙一重の体験



「ちば・戦争体験を伝える会」 森 大死さん

(当時森さんは3歳。「これは、母から聞いた話です」と前置きをしての体験談です)

「お前たちは防空壕へ入れ！俺は実家を見てくる！」

あの日の朝、突然の“空襲警報”に横浜へ向かうべく玄関でゲートル<sup>ぼうくうこう</sup>を巻いていた父は外へ飛び出しました。

母と私が防空壕に入った直後、「ものすごい音、体が浮かび上がる様な振動、一瞬で防空壕の入り口のふたが飛ばされ、その場所に何か大きな物体がズーン！落下と同時に煙がドゥーと入って息が苦しい」まだ小さかった私は、このことのみ脳裏に残っています。

母もあまりにも息苦しくて何も分からず、無我夢中で私を抱き上げ突き上げました。するとポッカーと穴が開き、その穴を素手で広げて私と共に防空壕を抜け出しました。一面焼け野原と散乱する肉片、人骨。それはさながら地獄絵図だったのでは…。わが家かというと、柱が1、2本残っているのみ。周辺には爆弾の大きな穴が3個くらいあったとのこと。その中の一つは私にも記憶があります。

戦後2、3年は埋められなかったからです。この穴こそ、空襲の時に一緒に入ろうと誘われて、わが家も防空壕を掘ったからと、お断りした隣家の防空壕だったのです。考えてみますと、わが家の防空壕は爆風で盛り土が吹き飛ばされて抜け出せたのですから、その反対に直撃か生き埋めもあったでしょう。本当に生死紙一重だったと。

父はというと、帰ってきません。散乱していた人骨を拾い集めて、父、辰蔵として葬ったそうです。近所にも行方不明者がいて、爆撃から少し落ち着いた頃にみんなで集まり、ある場所を掘ったところ、父の遺体が出てきました。爆弾の土砂で生き埋めになったとみられ、あらためて葬儀をしたそうです。外に出ていった父は亡くなり、防空壕に入った私はこうして生きています。その「生、死」の境目を恨んだのは後年のことです。

※スポンの裾が絡まないように、また、すねを保護しうっ血を防ぎ脚が疲れないように、すねに巻いて使用するもの

## ■千葉市での被災者は4万人

参考文献：令和6年「考えよう 平和の大切さ」千葉市

1944年7月から8月にかけて、米軍がマリアナ諸島(サイパン、グアム、テニアン)を占領して以来、B29(航空機)による、東京や大阪、名古屋など主要都市への攻撃が始まりました。攻撃は次第に地方都市へと広がり、無差別攻撃となりました。千葉市では2度の空襲により被災者は4万1,212人におよびました。

参考：1945年12月末日の千葉市人口：9万5,903人

### ○1945年6月10日の空襲

午前7時45分から46分にかけて、27機のB29による一瞬の攻撃でした。目標は日立航空機千葉工場(現在のJFEスチール東日本製鉄所 千葉地区付近)でした。被害は、同工場の一部と蘇我町一丁目付近、目標から外れた新宿・富士見・新田町・新町付近で、死傷者391人、被災戸数415戸、被災面積26ヘクタール<sup>※</sup>におよびました。

※1ヘクタール=10,000㎡

### ○1945年7月7日の空襲

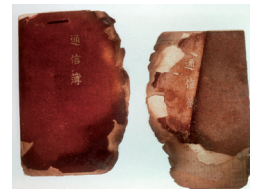
午前1時39分から3時5分にかけて、129機のB29による攻撃で、「七夕空襲」とも呼ばれています。目標は千葉市街地で火の海と化しました。中心市街地の大部分が焼き尽くされ、死傷者1,204人、被災戸数8,489戸、被災面積205ヘクタールにおよびました。



焼け跡からの懐中時計  
[写真提供:千葉市]



焼けた銅貨  
[写真提供:千葉市]



焼け焦げた通信簿  
[写真提供:千葉市]

### ○1945年8月15日、ポツダム宣言の受託により太平洋戦争が終結

空襲による家屋の焼失、物価高騰、食糧不足など市民生活は困窮を極めました。しかし、そのような苦しい中、人々は必死でバラック小屋を建て生活を再建し、街の復興に立ち上がりました。



当時の栄町通り▶

## ■空襲の体験を基に描かれた紙芝居 制作：「ちば・戦争体験を伝える会」

千葉市を拠点にして、戦争体験者の皆さんといっしょに子どもや若者たちに戦争体験を伝えていく活動をしている「ちば・戦争体験を伝える会」が作成した紙芝居を紹介します。



小さなふたつの骨壺



少国民がみた戦争「非国民!」



お地蔵さまに祈る

コープみらいでは、「平和」について「知り、学び、伝える」ことを大切に「ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ平和の旅」など次世代への継承に取り組んでいます。夏休みのこの機会にご家族で改めて、紙芝居を見たり、地域の戦争遺跡を調べたり、「平和の大切さ」について考え話し合ってみませんか。

問い合わせ

コープみらい千葉県本部 参加とネットワーク推進部 TEL 0120-925-036 9時~17時(土・日・祝日休み)